日本保健医療行動科学会

HEALTH BEHAVIORAL SCIENCE NEWS LETTER

第105号 2022年9月26日 発行

発行　日本保健医療行動科学会

〒631-8524　奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学内
Email: info＠jahbs.info　　Tel: 050-7115-5154
Web サイト: https://www.jahbs.info/

発行責任者　諏訪茂樹
編集責任者　吉岡隆之　飯高浩子（事務局）

第13期会長就任のご挨拶

諏訪茂樹（東京女子医科大学）

私が行動科学と初めて出会ったのは、まだ大学院生だった1981年のことでした。当時、東京大学保健社会学教室の教授だった故園田恭一先生のご紹介により、旧国立精神衛生研究所の宗像恒次先生の研究室を訪れたときのことです。そこで、北米の保健医療職養成教育で使われている標準的な教科書として、Behavioral Scienceというタイトルの本を紹介されたのです。

1985年には本学会の設立準備会が開催され、私も事務局メンバーの一人として参加し、初代会長に就任することになる故中川米造先生と出会いました。その後、中川先生が関東で保健医療職向けのワークショップを指導される度にお手伝いし、体験学習の方法を学ばせていただきました。それと同時に、つねに患者の側に立ち、保健医療を改革していこうとする中川先生の姿勢に、とても大きな影響を受けました。

私は本学会が編集した『保健医療行動科学事典』（メヂカルフレンド社1999）において、行動科学を「人間の行動を総合的に解明し、予測・統御しようとする実証的経験科学」だと説明しました。行動科学は数理モデルの影響を強く受けながら発展してきましたが、今日では質的研究にも積極的に取り組んでおります。また、行動科学は対象操作に利用されてきた歴史がありますが、今日では人を単なる操作の対象として捉えるのではなく、互いに影響を及ぼし合いながら共に変化する存在として捉え、自らが変わることにも強い関心を寄せています。

行動科学という言葉が生まれて約70年となり、本学会が設立されて今年で36年となりますが、ようやく2023年から行動科学の履修が北米での医療行為の条件となります。それに先立ち日本の医師養成課程等でも、行動科学教育の導入が進んで参りました。人を身体だけではなく意識を持つ存在としてもとらえ、人文社会科学を含む学際的な研究と教育に取り組んできた本学会の役割は、今後ますます重要になることと確信しております。

チーム医療や全人医療の実践は、もはや後戻りできない趨勢と言えます。保健医療にかかわる多職種が参加する本学会が、患者・利用者中心の安全・安心で良質な保健医療の推進者として、今後も社会貢献を続けられるよう、微力ではありますが努力して参りたいと考えます。ご支援のほど、何卒宜しくお願い致します。

【会長プロフィール】東京女子医科大学統合教育学修センター准教授。専門はコミュニケーション論、人間関係論、集団・組織論。1999年に中川記念奨励賞を受賞し、2013年には第28回日本保健医療行動科学会学術大会長、2019年からは本学会副会長を務める。著書として『看護にいかすリーダーシップ 第3版』（医学書院）、『対人援助のためのコーチング』『看護のためのコミュニケーションと人間関係』（いずれも中央法規出版）、『コミュニケーション・トレーニング　改訂新版　人と組織を育てる』（経団連出版）、他。

【ご案内】第3回オンライントーク：当事者との対話

患者家族会の活動を通して思ったこと ― 活動の意義, 困難, 秘訣

報告者：**にじいろの電車 代表 三上葉子**

子どもの脳神経外科での治療を通してつながった家族会の代表の方に、お話いただきます。

日　時：2022年11月13日（日曜日）19:00–20:30
場　所：Zoomオンライン会場　　申　込：こくちーずプロより　→
会　費：学会員 無料、非学会員 ￥500

日本保健医療行動科学会 第 37 回（2022 年度）総会報告

第 37 回（2022 年度）総会は 2022 年 6 月 18 日（土）にオンライン会議（Zoom 利用）として開催されました（第 36 回学術大会第 1 日目）。諏訪茂樹氏の司会進行のもと、中川晶氏の開会宣言、樋口倫子第 36 回学術大会長の挨拶の後、総会の議長は川村千恵子氏、書記は上杉裕子氏が選出されました。総会では、最初に第 13 期理事・監事選挙結果と第 13 期理事の互選による「①会長及び副会長の選出（総会資料 1)」の説明があり異議なく承認されました。次に 2021 年度の「②事業報告《第 1 号議案》(総会資料 2)」、「③収支決算報告《第 2 号議案》(総会資料 3)」が行われ、③監査報告（総会資料 3）として「事業及び会計が適正に行なわれている」との報告が行われ、いずれの議案も異議なく承認されました。次に、2022 年度の「④事業計画《第 3 号議案》(総会資料 4)」、「⑤予算案《第 4 号議案》(総会資料 5)」の説明があり異議なく承認されました。なお予算案については事務局移転や事務局員交代に伴う経費の一部変更の可能性も示唆されました。次に、利益相反に関する指針策定（理事会で検討中）に伴う「⑥投稿規定（総会資料 6）の改定」について説明があり異議なく承認されました。その後「⑦雑誌査読委員に関する申し合わせ（総会資料 7)」及び「第 13 期役員・委員会構成」について報告があり、総会は終了しました。総会に引き続き「⑧各支部の研究会報告及び収支決算報告（総会資料 8)」が行われました。なお、2021 年度の中川記念奨励賞及び奨励研究員の応募はありませんでした。最後に次回第 37 回学術大会長の馬込武志氏及び 2022 年 9 月末で退職する事務局員の飯高氏より挨拶がありました。

①会長及び副会長の承認（総会資料 1）

＜会長＞ 諏訪茂樹（社会学） ＜副会長＞ 岡 美智代（看護学)、樋口倫子（心理・福祉学）

②2021 年度事業報告（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）《第 1 号議案》（総会資料 2）

1．第 35 回学術大会・総会の開催
テーマ：医療者が当事者性を持つことの意義を問う
大会長：安酸史子（関西医科大学）
期　日：2021 年 6 月 26 日（土）・27 日（日）
会　場：オンラインによる開催（Zoom によるリアルタイム配信）

2．第 36 回学術大会・総会の開催準備
テーマ：対話する保健医療
大会長：樋口倫子（明海大学）
期　日：2022 年 6 月 18 日（土）19 日（日）
会　場：オンラインによる開催（Zoom によるリアルタイム配信）

3．機関誌（雑誌）の発行
雑誌 第 36 巻 1 号『長期化するパンデミック下の保健行動科学』(2021 年 7 月)
雑誌 第 36 巻 2 号『医療者が当事者性を持つことの意義を問う』(2022 年 3 月)

4．機関誌（雑誌）の発行準備
雑誌 第 37 巻 1 号『保健医療の行動科学再考（仮)』(2022 年 6 月発行予定)
雑誌 第 37 巻 2 号『対話する保健医療（仮)』(2022 年 12 月発行予定)

5．ニュースレターの発行
第 102 号（2021 年 10 月)、第 103 号（2021 年 12 月)、第 104 号（2022 年 3 月）

6．理事会の開催（5 回）
第 12 期第 11 回（2021 年 5 月 9 日・オンライン会議）
第 12 期第 12 回（拡大）(2021 年 6 月 26 日・オンライン会議)
第 12 期第 13 回（2021 年 8 月 1 日・オンライン会議）
第 12 期第 14 回（2021 年 11 月 23 日・オンライン会議）
第 12 期第 15 回（2022 年 2 月 11 日・オンライン会議）

7．顧問・評議員会の開催（1 回）
期　日：2021 年 6 月 26 日（土）（オンライン会議）

8．企画運営委員会の活動等
・学会企画共同研究：1回/月以上のオンラインによる研究会の実施。第36回学術大会にて、「相互理解で多職種連携は深化する―リフレクティングの活用によるフィージビリティスタディ」として、成果報告予定
・雑誌投稿・審査システム（Editorial Manager）の導入と運用開始（2021年10月）
・理事・監事選挙における電子投票の検討・導入、理事・監事選出規約等の改定
・雑誌第36巻別冊『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学（第2版）』発行（2022年3月）

9．第13期理事・監事選挙の実施（2021年12月～2022年1月）（電子投票により実施）

10．中川記念奨励賞の選考（2020年度応募者なし）・募集（2021年度応募者なし）

11．奨励研究員の選考（2020年度応募者なし）・募集（2021年度応募者なし）

③2021年度収支決算報告及び監査報告（2021年4月1日～2022年3月31日）《第2号議案》（総会資料3）

2021年度予算		2021年度決算	
収　入　の　部	（単位：円）	収　入　の　部	（単位：円）
年会費（7,000*360、5,000*20）	2,620,000	年会費（7000*473、5000*39、3,000*4、差額調整2,000*1）	3,520,000
機関誌（雑誌）売上	200,000	機関誌（雑誌）売上	316,506
前年度からの繰越金	2,909,283	前年度からの繰越金	2,909,283
利息	0	利息	4
その他	0	その他	0
合　　計	5,729,283	合　　計	6,745,793
支　出　の　部	（単位：円）	支　出　の　部	（単位：円）
機関誌（雑誌）発行費	900,000	機関誌（雑誌）発行費	858,550
印刷費	180,000	印刷費	136,400
人件費（69,600*12＋2020年度時間外勤務分割払分90,000）	925,200	人件費（69,600*12+2020年度時間外勤務分割払分90,000）	925200
通信連絡費	300,000	通信連絡費	268,545
消耗品・備品費	30,000	消耗品・備品費	3,693
会議費（理事会等交通費200,000、ZOOM・Google Workspace等利用料30,000）	230,000	会議費（ZOOM・Google Workspace等利用料）	30,317
第３６回学術大会補助費	600,000	学術大会補助費（35回大会追加補助費133,448、36回大会補助費600,000)	733,448
支部活動補助費	0	支部活動補助費	0
学会事務所運営費	20,000	学会事務所運営費	0
編集委員会費	50,000	編集委員会費	15,723
雑誌投稿・審査システム運用費（初期導入費660,000・運用費220,000）	880,000	雑誌投稿・審査システム運用費	734,800
中川記念奨励賞副賞	0	中川記念奨励賞副賞	0
学会webサイト運営費（サーバー等16,000・Webサイト移設等200,000）	216,000	学会webサイト運営費（サーバー等17,083・会員管理43,241）	15,763
会員管理システム運用費	450,000	会員管理システム運用費	447,074
企画運営委員会活動費（共同研究400,000、その他100,000）	500,000	企画運営委員会活動費（共同研究）	28,028
役員選挙費（電子投票システム利用料等）	60,000	役員選挙費（電子投票システム利用料等）	61,050
予備費	388,083	次年度への繰越金	2,487,202
合　　計	5,729,283	合　　計	6,745,793

（註：2021年度決算収入の部年会費3,520,000円のうち5,000円は2022年度年会費）
※次年度繰越金を除く支出合計4,258,591円（収入合計6,745,793円－次年度繰越金2,487,202円）

＜2021 年度特別会計＞（2022 年 3 月 31 日現在）　　（2020 年度末特別会計残高 1,783,064 円）

事業費積立金残高	1,870,298 円	2021 年度収入合計 163,889 円（教科書売上 163,874 円、利息 15 円） 2021 年度支出合計 76,655 円（教科書編集アルバイト作業代 76,210 円、振込手数料 445 円）（参考）教科書印刷費 390,940 円は次年度計上

○2021 年度監査報告

会則第 20 条に基づき、事業報告及び収支決算の監査を実施しましたので報告します。

1．監査対象　①2021 年度事業報告　②2021 年度収支決算

2．監査報告　上記のとおり、納入、支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿への記帳は良好であったことを承認します。

2022 年 5 月 22 日

監　査　花家　薫

林　哲也

④2022 年度事業計画（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）《第 3 号議案》（総会資料 4）

1．第 36 回学術大会・総会の開催

テーマ：対話と保健医療

大会長：樋口倫子（明海大学）

期　日：2022 年 6 月 18 日（土）・19 日（日）

会　場：オンラインによる開催（Zoom によるリアルタイム配信）

2．第 37 回学術大会・総会の開催準備

テーマ：未定

大会長：馬込武志（東大阪大学）

期　日：2023 年 6 月 17 日（土）・18 日（日）

会　場：会場、開催方法等は未定

3．第 8 回国際保健医療行動科学会議開催の検討

期日，開催地は未定

4．機関誌（雑誌）の発行

雑誌 第 37 巻 1 号『保健医療の行動科学再考（仮)』(2022 年 7 月発行予定)

雑誌 第 37 巻 2 号『対話する保健医療（仮)』(2022 年 12 月発行予定)

5．機関誌（雑誌)の発行準備

雑誌 第 38 巻 1 号（2023 年 6 月発行予定)

雑誌 第 38 巻 2 号（2023 年 12 月発行予定)

6．ニュースレターの発行

第 105 号（2022 年 8 月)，第 106 号（2022 年 12 月)，第 107 号（2023 年 3 月）(予定)

7．理事会の開催（6 回)

第 12 期第 16 回（2022 年 5 月 22 日）(オンライン会議)

第 13 期第 1 回（2022 年 6 月 18 日）(オンライン会議)

第 13 期第 2 回（拡大）(2022 年 6 月 18 日）(オンライン会議)

第 13 期第 3 回（2022 年 8 月（オンライン会議）(予定)

第 13 期第 4 回（2022 年 11 月）(オンライン会議）(予定)

第 13 期第 5 回（2023 年 2 月）(対面・オンライン会議併用）(予定)

8．顧問・評議員会の開催（1 回)

2022 年 6 月 18 日（土）(オンライン会議)

9．企画運営委員会の活動等
・学会企画共同研究
・オンライントーク・シンポジウム等の開催検討
・教科書第 2 版の増刷
・学会 Web サイト刷新
・ニュースレターの電子化の検討
・雑誌の電子化（J-STAGE、DOI など）の検討
・理事・監事選出規約等の改定の検討

10. 中川記念奨励賞の選考（2021 年度応募者なし）・募集（2022 年度）

11. 奨励研究員の選考（2021 年度応募者なし）・募集（2022 年度）

⑤2022 年度予算案（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）《第 4 号議案》（総会資料 5）

収　入　の　部	（単位：円）
年会費（通常 7,000*360、大学院 5,000*20）	2,620,000
機関誌（雑誌）売上	200,000
前年度からの繰越金	2,487,202
利息	4
その他	0
合　計	5,307,206
支　出　の　部	（単位：円）
機関誌（雑誌）発行費	900,000
印刷費	180,000
人件費（69,600/月*6 + 52,800/月*6 +2021 年度時間外勤務分割払分 97,150）	831,550
通信連絡費	300,000
消耗品・備品費	30,000
会議費（理事会等交通費 200,000、ZOOM・Google Workspace 等利用料 30,000）	230,000
学術大会補助費	600,000
支部活動補助費	0
学会事務所運営費（書類保管スペースレンタル 10,000/月*9）	90,000
編集委員会費	50,000
雑誌投稿・審査システム運用費（運用費 220,000）	220,000
中川記念奨励賞副賞	0
学会 web サイト等運用費（サーバー等 16,000・Web サイト移設等 200,000）	216,000
会員管理システム運用費	450,000
企画運営委員会活動費	500,000
予備費	709,656
合　計	5,307,206

＜2022 年度特別会計＞　　（2021 年度末特別会計残高 1,870,298 円）

〇本学会編 教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学 第 2 版』（2022 年 3 月 31 日発行）
教科書印刷費 390,940 円（2022.4 支払）
（参考）教科書編集アルバイト作業代 76,210 円、振込手数料 445 円、合計 76,655 円は前年度執行

⑥投稿規定の改定（総会資料 6）

「利益相反に関する指針」策定に伴い次の点が改定されました。

＜投稿規定　１０．利益相反関係＞
利益相反関係の有無を別に示す本学会「利益相反に関する指針」に基づき，次の 1)及び 2)により開示（報告）してください。1) 本文（文献リストの前）に明記してください。著者全員が利益相反はない場合は「利益相反はない。」と記載し、利益相反がある場合は具体的に記載してください。2) 利益相反がある場合は、著者全員の利益相反関係を明記した「利益相反申告書（様式 2)」を投稿時に PDF ファイルにして添付してください。

※「利益相反に関する指針」に関する記事が本ニュースレター14 頁に掲載されています。

⑦雑誌査読委員に関する申し合わせ（2022 年 5 月 22 日）（総会資料 7）

「雑誌専任査読委員に関する申し合わせ（2022 年 2 月 11 日)」の文言の一部が次のとおり修正されました。

名称　雑誌専任査読委員に関する申し合わせ → 雑誌査読委員に関する申し合わせ
１．専任査読委員選定規準 → １．査読委員選定規準
A 査読委員（役員）→ A 専任査読委員（役員）
B 査読委員（会員）→ B 専任査読委員（会員）
C 査読委員（会員以外）→ C 臨時査読委員（会員以外）
1) 本学会の会員以外で、編集委員会が必要に応じて特に認めた者 → 臨時に認めた者
２．専任査読委員の役割と責任 → ２．査読委員の役割と責任

※「雑誌査読委員に関する申し合わせ」は本ニュースレター15 頁に掲載されています。

⑧各支部の研究会報告及び収支決算報告（総会資料 8）

■東京支部研究会報告及び収支決算報告（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

回数	年月日	会場	テーマ　（報告者）
第 106 回	2021 年 7 月 10 日（土） 13:00-16:00	オンライン	テーマ：やってみたくなったオープンダイアローグ 〔コーディネーター〕 樋口倫子（明海大学） 蓮井貴子（東京医療保健大学） 瀬在泉（防衛医科大学校） 金田和大（東北会病院）
第 107 回	2022 年 2 月 5 日（土） 18:30－20:00	オンライン	テーマ：ティーチングとコーチングによるスタッフ育成 Ⅰ.ビギナーへの効果的な指示 講師：諏訪茂樹　（東京女子医大）

収入の部		支出の部	
前年度よりの繰越金	264461 円	研究会講師謝礼	5,000 円
支部活動補助金	0 円	会議費	0 円
研究会参加費	2,000 円	雑費	0 円
利息	1 円	次年度への繰越金	261,462 円
収入合計	266,462 円	支出合計	266,462 円

■北海道支部研究会報告及び収支決算報告（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

諸般の事情により、北海道支部研究会は開催せず（次回は第 63 回)。
収入・支出共なし。次年度への繰越金は 154,931 円。

■近畿支部研究会報告及び収支決算報告（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

諸般の事情により、近畿支部研究会は開催せず（次回は第 138 回)。
収入・支出共なし。次年度への繰越金は 63,264 円。

日本保健医療行動科学会 役員・委員会構成（敬称略，五十音順）（2022 年 9 月 26 日現在）

第 13 期　＜任期：2022 年 6 月 1 日～2025 年 5 月 31 日＞
（但し、顧問は任期の定めなし、1) 2022 年 8 月 14 日～、2) 2022 年 9 月 4 日～）

〈顧　問〉稲岡文昭（看護学）、仲尾唯治（社会学）、藤崎和彦（医学）、南　裕子（看護学）、宗像恒次（健康科学）、John Launer（ジョン・ローナー）（医学、英国）、Brian Hurwitz（ブライアン・ハーウィッツ）（医学、英国）

〈会　長〉諏訪茂樹（社会学）

〈副会長〉岡 美智代（看護学）、樋口倫子（心理・福祉学）

〈理　事〉梓川 一（心理・福祉学）、大門恭平（健康科学）、岡本響子（看護学）2)、上山千恵子（看護学）2)、小林好信（健康科学）、酒井幸子（社会学）、白土菜津実（看護学）1)、末松弘行（医学）、中川 晶（医学）、任 和子（看護学）、蓮井貴子（看護学）、林 哲也（健康科学）、深井穫博（歯学）、宮本眞巳（看護学）、安酸史子（看護学）、吉岡隆之（健康科学）

〈監　事〉河口てる子（看護学）、花家 薫（健康科学）

〈評議員〉上杉裕子（看護学）、大芦 治（心理・福祉学）、小田和美（看護学）、川村千恵子（看護学）、小林昌廣（健康科学）、紺井拡隆（歯学）、佐藤冨美子（看護学）、島井哲志（心理・福祉学）、瀬在 泉（健康科学）、徐 淑子（社会学）、平 英美（社会学）、髙橋さつき（看護学）、藤内修二（医学）、東中須 惠子（看護学）、久村正也（医学）、藤田裕一（心理・福祉学）、本庄恵子（看護学）、馬込武志（社会学）、眞﨑由香（看護学）、松田 聡（医学）、松原みゆき（看護学）、道信良子（社会学）、村岡 潔（社会学）、村上 真（健康科学）、村田正章（医学）、元村直靖（医学）、守本とも子（看護学）、山口 豊（心理・福祉学）、山崎裕美子（看護学）、吉村雅世（看護学）、渡辺理和（社会学）

＜顧問 7 名，理事 19 名（会長・副会長を含む），監事 2 名，評議員 31 名＞

【編集委員会（常設）】
樋口倫子（委員長）、岡 美智代、岡本響子 2)、上山千恵子 2)、諏訪茂樹、瀬在 泉 1)、任 和子、蓮井貴子、深井穫博、宮本眞巳、吉岡隆之

【広報委員会（常設）】
岡 美智代（委員長）、小林好信、白土菜津実 1)、林 哲也
＜ウェブサイト主担当＞小林好信、＜ニュースレター主担当＞白土菜津実

【国際交流委員会（常設）】
中川 晶（委員長）、岡 美智代、諏訪茂樹、樋口倫子、吉岡隆之

【中川記念奨励賞選考委員会（常設）】
安酸史子（委員長）、梓川 一、末松弘行、宮本眞巳（以上、理事から選出）
上杉裕子、藤田裕一、本庄恵子、道信良子（以上、評議員から選出）

【企画運営委員会（特別委員会）】
諏訪茂樹（委員長）、梓川 一、岡 美智代、岡本響子 2)、上山千恵子 2)、小林好信、酒井幸子、白土菜津実 1)、末松弘行、中川 晶、任 和子、蓮井貴子、林 哲也、樋口倫子、深井穫博、宮本眞巳、安酸史子、吉岡隆之
＜共同研究企画担当＞岡 美智代、＜教科書企画担当＞諏訪茂樹、＜オンライントーク企画担当＞林 哲也

☆　日本保健医療行動科学会「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集　☆

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において 45 歳未満の正会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規（2013.6.22.最終改定版）」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。2023 年度受賞の応募期限は 2023 年 3 月末日です。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は 1 年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

第 36 回日本保健医療行動科学会を振り返って

第 36 回大会長　樋口倫子

第 36 回日本保健医療行動科学会学術大会が、2022 年 6 月 18 日（土）－19 日（日）に、Web 形式にて開催されました。第 36 回大会は、実行委員会のみなさんのアイディアで Web 開催ならではの多彩なプログラムが準備されました。本学術大会は、150 名を超えるご参加をいただき、お陰様で盛会にて終了することができました。大会テーマの「対話する保健医療」の名の通り、参加者同士が対話し有意義な機会になりましたことを、心から感謝いたします。

1 日目の午前の基調講演では、「対話と共感が生み出す Well-being ―ネットワーク型支援の現状と課題」をテーマにお話しさせていただきました。これまでの心理職として Well-being 支援に携わってきた経験から、心理支援の対象が個人要因に偏りすぎていた問題点について触れました。対人支援の場面では、問題は個人の内部にあるということが前提となっていたという点です。例えば、うつを患っているのは、個人の問題のように見えますが、それを生み出すきっかけとなっている環境要因があり、わたしたち支援者は、もっと「社会的」な視点を携え、「私たちごと」としてかかわる姿勢や前提を疑う姿勢を身に着ける必要があります。ふつう、世間の常識、あたりまえは、全て私たちが作り上げたものだからです。みんな違ってよいという多様性尊重社会は、言うは易く行うは難し、です。それが実装されるには、より一層のあたりまえを疑う姿勢、当事者の世界に立った視点が必要になります。

お昼の時間帯には、2 つの交流集会が企画され、お昼ごはんを食べながら、日頃感じていることを声に出してみる機会になりました。2 つの集会とも、「ゆるくつながる」「わきあいあいと」がキャッチフレーズになっていました。孤立を予防する取り組みとしても、注目されている、「ちょっとしたつながり」、「弱いネットワーク」の価値を見直す機会になりました。

シンポジウム「相互理解で多職種連携は深化する ―リフレクティングの活用によるフィージビリティスタディ」では、学会企画の研究チームが 1 年かけて取り組んできた研究成果について発表いただきました。多職種の専門家チームが協力して実践する医療は、患者中心のケアの提供を強化するとともに、患者の治療予後の改善につながります。職種間の相互理解を目的に、リフレクティングを活用した対話的ミーティングや全体のふり返りセッションが試みられ職種間のみならず自職種への理解が深まることが報告されました。

保健・医療・福祉・心理・教育の領域のコミュニケーションは、より平等で対等な関係のもとに変化し続けています。それは、コミュニケーションの取り方といった表面的なことではなく、よりよい生き方やあり方を実現する支援を指しています。介入・治療・教育というモノローグの姿勢から協働・相互接続・創造というダイアロジカルな実践へのパラダイムチェンジを意味します。こうした新しいパラダイムに基づく保健医療の実現にむけて、4 つのワークショップが用意されました。1 日目には道信良子先生の「エスノグラフィック・インタビュー」と、諏訪茂樹先生の「チームワークのためのカンファレンス・トレーニング」が、2 日目には林哲也先生の「信念対立解明アプローチ」と、大会実行委員会による「オープン・ダイアローグ」のワークショップが開催されました。どの course も参加者が普段の臨床を振り返る機会となっていました。

懇親会では、コロナ禍でオンライン開催の学術大会が 2 年続き、会員、非会員が集い、和やかな雰囲気の中で、保健医療の未来を語り合いました。

2 日目の朝は、村上真先生のモーニング・ヨガで、頭も身体も爽快な状態でスタートしました。短時間でしたが、身体との対話ともいえるヨガは、座りながらでもできる身近な内容を紹介いただき、ご参加の皆さんに好評でした。

午前中は、口頭発表「当事者の世界から見える医療」「対話する専門職・連携」「心と身体の対話」の 3 つのセッションが行われ、演者らの研究成果発表は、参加者からの質疑や座長の鋭いコメントによって、さらに議論の視点が深まっていきました。お昼の時間には、ポスターセッションが開催され、各部屋では演者と参加者とのディスカッションが続きました。

午後の部の特別講演では、斎藤環先生より「保健医療のためのオープン・ダイアローグ」についてご講演いただきました。フィンランドで始まったオープン・ダイアローグは、世界中で注目され、日本でも多くの人々がその哲学性に魅了され、実践されている治療チームも増えてまいりました。関係者が集まって、クライエントの主観を尊重しながら、なるべく意見を一つにまとめようとせず、様々な意見の共存を目指して対話を続けるようにすること、不確実性に耐えるというのは、苦痛なことと捉えず、ワクワクした気持ちで、共にいるというオープン・ダイアローグ実践をお話いただき、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。講演後の質疑の時間には、参加者から多くの実践的で鋭い質問をいただき、理解が深まる機会となりました。

オンラインでの開催に際し、配慮が至らない点もあったことと存じますが、円滑な運営にご協力をいただきました参加者・関係各位の皆様に敬意と感謝を込めて、お礼申し上げます。新型コロナ感染症の収束の見通しのないままに日常生活は動き出していますが、油断はできません。皆様どうぞご自愛くださいますようお祈り申し上げます。次回大会以降に、再会できますことを心待ちにしております。

第 36 回日本保健医療行動科学会　報告

大会参加者（大会参加登録者数）152 名
（内訳：会員 77 名、学部学生 1 名、大学院生 9 名、非会員 16 名、団体（明海大）49 名）

以下､大会に参加された方の感想を Web アンケートより一部抜粋してご紹介します｡(アンケート回答者 28 名)

1. 大会の全体評価（0～10 点満点）　平均　8.35 点

2. プログラムで興味深かったもの
・【特別講演】保健医療のためのオープン・ダイアローグ
・【基調講演】対話と共感が生み出す Well-being ―ネットワーク型支援の現状と課題
・ワークショップ、モーニングセッション（ヨガ）など

3. 感想（抜粋）
＜基調講演＞
・樋口大会長の行動力とエネルギーは凄い。ロシアのウクライナ進攻で、対話とは？対話で解決できるのか？対話に意味があるのか？しばし堂々巡りもしてしまったが､対話と共感が生み出す Well being ネットワーク型支援ですね。できるところから関わっていこうそう考えるに至った昨今です。できることをぼちぼちですね。
・この世の全ての人々に対話が欠かせないと感じた｡全ての人間は対等であり､教育ではエイジェンシー教育（一緒に作る教育）こそが大事だとわかった。

＜特別講演＞
・新たな発見とともに、日ごろの実践に対して命名していただけたような気がして、オープン・ダイアローグについてさらに学んで、実践に取り組んでみたいと感じました。斎藤先生が､「治療計画を立てて計画通りうまくいったという経験は一度もない。前もって立てるプランは貧しいし、全く意味がない」と仰っていたことが心に強く刻まれました。不確実性に耐えながら、クライエントと対話を続けていく取り組みは、無限の可能性を持つのだと感じます。一方で、専門性を一切身に着けていない状態でのオープン・ダイアローグとは可能なのか、脱ぎ捨てるために一度身に着けておく必要はあると言えるのだろうか、不確実性に耐えるには、耐えうるだけの専門性も必要となるのではないか・・・などと考えを巡らせています。臨床実践に限らず、対話的なコミュニケーションが実現される世界になっていってほしいです。その実現のために、私自身も努力したいと思います。また、斎藤先生のお話をうかがえる機会を心待ちにしております。

＜シンポジウム＞
・方法論のアプローチなどを野呂瀬先生より詳しく説明いただけるとよいと思いました。
・学会として取り組んでいることがわかり興味深かった。多職種連携について、視点が持てた。
・職種間で連携を図り、互いが納得するまで話し合う事が大切だとわかった。

＜一般演題・ポスターセッション＞
・その研究について自分はどんな問題意識を持っているのかということを明確に持って取り組むことから出発することが重要かと思いました。
・ポスター発表でも交流ができるのが良いと思いました。

＜ワークショップ＞
・(ワークショップ 1) 2 時間では足りないと思うほど、興味深い体験となりました。エスノグラフィック・インタビューとはどのようなものなのか、実際の実践例をモデルとして拝見してみたいと思いました。道信先生の研修会を開催して頂けるようでしたら、ぜひ参加したいです。
・(ワークショップ 2) 医療の場面では、医師優先、先輩優先、所属長、先生優先などのコミュニケーションが多く、対等な立場で話し合う、民主的な話し合いを忘れがちになるときが正直あります。民主的なお互いの立場を尊重し合った、話し合いや自分のコミュニケーションに対する気づきを持つことができ、大変感謝しております。今後とも是非よろしくお願いいたします。
・(ワークショップ 3) 信念対立解明アプローチですが、対立に対する、多角的な分析が、解決や歩み寄りの道筋に繋がるということで興味深かったです。参考図書など是非ご紹介していただきたかったです。コロナ禍の製作についての話し合いも、異なる意見を持つ人への歩み寄りの視点が勉強になりました。多角的なアプローチを学ばせて頂きありがとうございました。

＜交流集会＞
・ゆるくつながる、というのがとても良かったです。
・ホリスティック・アプローチ:担当者が朗らかで、ランチョンだからこそ馴染みのないテーマに参加できた。

＜モーニング・ヨガ＞
・スポーツクラブ等で習っていますが、学際的な視点を加えたヨガのセッション、深い学びとなりました。

4. 次年度の大会に向けて関心があるテーマ等
・「保健医療行動」に関する学際的な発表や議論対話的なコミュニケーションの体験できるワークショップ（オープン・ダイアローグなど)
・医療サービス、対話から生まれる価値など、保健医療行動科学会では当事者の目線でそこを外さない学会でいて欲しい。
・気質と組織について（どの気質の持ち主がどのような場面で強みが発揮され、どの気質とどの気質の組み合わせが仕事や家庭でうまく機能するか)
・保健医療行動科学の歴史、保健医療職間における性差問題やハラスメントの問題、保健医療領域におけるガイドライン指向性の評価・検討、保健医療職の労働問題と働き方改革（特に「サービス残業」をどのよういう調整すべきか)、保健医療領域における IT や AI の導入の諸問題、保健医療行動科学の教育(特に生涯教育)
・VR を含む ICT を活用した保健医療行動、治療や教育について

この度は、日本保健医療行動科学会第 36 回学術大会の開催にあたり、当日のご参加、ならびに、開催に向けて多大なるご協力を頂きました全ての皆さまに御礼申し上げます。オンライン開催ということで、色々とご不便をおかけしたことも多かったと存じますが、何卒ご容赦頂けましたら幸いです。(第 36 回大会事務局)

第 37 回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内（第 1 報）[2022.9.26.]

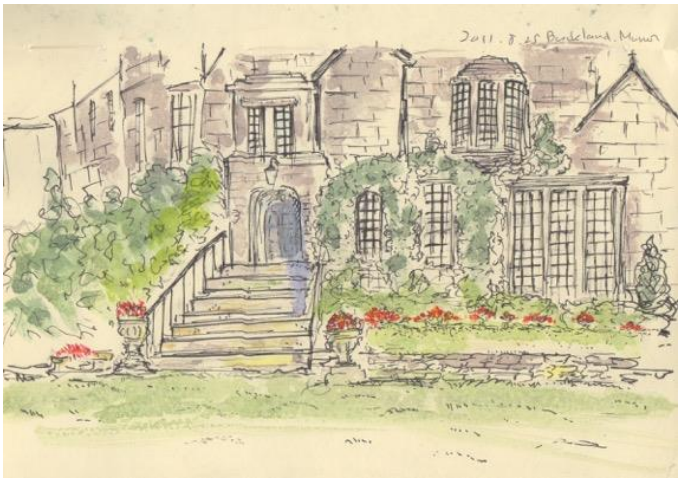
＜期　日＞　2023 年 6 月 17 日（土)・18 日（日）
＜テーマ＞　保健医療行動において未来を語るとは（仮）
＜大会長＞　馬込武志（東大阪大学)
＜会　場＞　未定（対面での開催を予定しています。)
＜主なプログラム（予定）＞
基調講演、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題発表等

※詳細は本学会の Web サイトに順次掲載予定

挿絵ギャラリー（第 104 号からの続き）　　＜最終回＞

ニュースレター（第 81～99 号）に掲載された挿絵等（中川 晶 作）を順次、一堂に再掲しております。
今号では第 93～99 号に掲載された挿絵等 23 点を掲載しました（コメントは当時のものです！）。

（第 81～92 号に掲載の挿絵は第 100 号、第 103 号、第 104 号に掲載済みで本学会 Web サイトでも公開されています。Web 版はカラーです。）

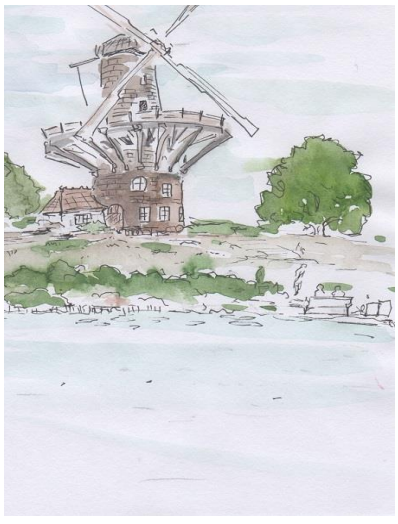


英国コッツウォルズのマナーハウス（昔の貴族の館）今はホテルでした

ロンドンの公園で普通に乗馬してる人がいるのにびっくり

No.93（2017 年 8 月号）より

デンハーグのバー



ライデン風車

バス待つ人々

No.94（2017 年 12 月号）より

イヌイット龍（ライデン民族学博物館
のイヌイットの仮面から想起した龍）

語らいレストラン

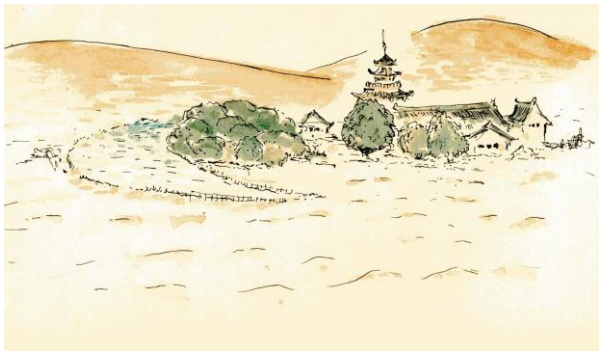
汽車を待つ人々

No.95（2018年3月号）より

霊長類の智恵

英国ケムブリッジのケム川

No.96（2018年8月号）より



中国の西の果て敦煌の砂漠にある、不思議な湖

敦煌の洞窟をくり抜
いた大きな大仏さま

死神ジャックの挿絵。
三途の川の大花火大会

No.97（2018年12月号）より

ベトナムはどこでも美味しく、
屋台のおばちゃんも親切でした

ベトナムの雑踏を絵にするとこんな感じでした

リラックスした
弥勒菩薩

今年の干支、
猪を作ってみました

No.98（2019年3月号）より

葡萄園レストラン

お地蔵さんがいっぱい

No.99（2019 年 12 月号）より

本の紹介

『医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本』（全 171 頁）

村岡 潔・山本克司編著，法律文化社，2021 年 4 月 20 日 初版発行，定価 2400 円＋税

紹介者　**本学会評議員　村岡 潔**

本書は、医療現場で働くすべての人々や、その道を目指す医学生・看護学生、さらには介護者や社会福祉士のような医療・看護の現場に携わる人々向けに編まれた人権・倫理の手引書です。こうしたケアの担い手には、高度な医療・看護の技術だけでなく患者や家族の心と向き合い、その尊厳を保障するために高い人権意識と倫理観が求められます。

本書は、そうした人権や倫理とその実践のための保健医療の行動科学的アプローチを平易に解説します。人権や医療・看護の倫理の習得は、患者の権利擁護や自己決定の手助けになり、質の高い医療サービスの提供にもつながるのです。

本書の構成は、次の通りです。

第 1 章『医療・看護にかかわる人権の基礎知識』では、医療現場の具体例に沿いながら、人権の意義・歴史・内容や性質について記述しています。

第 2 章『医療・看護現場で役立つ倫理的アプローチ』では、患者と医療者の関係は最善のものにするための、医療・看護現場で役立つ倫理的アプローチの基本や、その実例の＜患者の権利章典＞について紹介しています。

第 3 章『＜老い＞と＜認知症＞をめぐる倫理的仮題』では、超高齢社会の影響下に 医療現場で問われる＜老い＞と＜認知症＞について医学的視点を交え記述しています。

第 4 章『先端的医療における倫理的課題』では、第 2 章に続き、医療の倫理的課題へのさまざまなアプローチを紹介し、それぞれ事例を示して解説します。この 2 つの章の学習で、ほとんどの臨床の倫理的問題に対し、一定の解答が出せるよう行動科学的に構成されています。

第 5 章『看護倫理』では、医療現場で看護師に必要な倫理と歴史の知識、生命倫理と看護、看護師やその他の医療者と患者さんとの関係、看護師の守秘義務について記述しています。

第 6 章『看護師の倫理的課題』では、第 5 章をふまえ、臨床でのリスク・マネジメントや患者への接遇の課題について深めていきます。

第 7 章『看護師の法的責任』では、医療事故や医療訴訟について法学の視点から分かりやすく叙述しています。

第 8 章『医療・看護の事故と医事法』では、医療現場の長時間労働、精神障害者への医療、＜診療ガイドライン＞の功罪、現在の緊急課題である＜感染症への対応＞などについて解説します。

最後の『ケース・スタディ編』では、各章で学習した内容をより深めるため、再発がん手術とインフォームド・コンセント、「徘徊」、要介護高齢者虐待、第 18 染色体トリソミー、ECMO とトリアージ、予防的乳房切除術、LGBTQ と生殖補助技術、電子カルテと医療過誤などをテーマにした 12 の臨床で遭遇しうるハード・ケースを掲載しています。各事例から医療倫理の問題を引き出し、それにさまざまなアプローチで、解答候補の選択肢をあれこれ考えたりしながら、一定の結論を導きだすといった、行動科学に則った倫理のトレーニングをすることが目的です。

以上、本書を、人権や倫理を医療・看護の現場で実践的具体的に展開する指針として、医療者・研究者はもとより患者や家族まで多くの人々にご活用いただければ幸甚です。

「利益相反に関する指針」について

安酸史子（本学会理事）

現在、本学会理事会において「利益相反に関する指針」「利益相反申告書（各種様式）」及び「利益相反委員会規定」について検討されております。「利益相反に関する指針」の概要（検討中）は次のとおりです。詳細が決まりましたら本学会 Web サイトあるいはニュースレター等でご案内いたします。

「利益相反に関する指針」の概要（検討中）　※利益相反（Conflict of Interest、以下「COI」）

1．目的（省略）
2．基本方針
（1）本学会の使命である学術活動の責務を十分に果たしながら、学会員が「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」との産官学連携活動及び保健医療行動科学への貢献活動を積極的に推進できるよう、環境整備を図る。
（2）COI を未然に防ぐこと、また COI が生じた場合に必要な措置を行うなど、利益相反マネジメントを実施する。
3．指針の適用となる対象者
COI 状態が生じる可能性がある以下の対象者に対し、本指針が適用される。
（1）本学会会員（通常会員、賛助会員、学生会員）
（2）本学会の学術大会で発表・講演する者及び機関誌にて論文発表をする者
（3）本学会の顧問、会長、副会長、理事、監事、評議員、学術大会長、各委員会委員
4．対象となる活動
対象者が行うすべての事業活動に対して、本指針を適用する。
5．「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」の定義
「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」とは、保健医療行動科学に関し、本学会と次のような関係を有する企業・組織や団体をいう。
（1）保健医療行動科学に関する開発や研究を依頼し、または共同で行った関係（有償無償を問わない）
（2）保健医療行動科学で評価される教材、機材などに関連して特許権などの権利を共有している関係
（3）保健医療行動科学で使用される教材、機材などを無償もしくは特に有利な価格で提供している関係
（4）保健医療行動科学に対して研究助成・寄付などをしている関係
（5）保健医療行動科学で開発中の教材や機材などを提供している関係
6．COI 自己申告の基準（開示基準等省略）
本指針が適用される対象者個人が次の（1）～（8）に該当する場合であって、次の開示基準額を超える場合、あるいは開示基準事項に該当する場合には、当該個人は所定の様式に従って COI 自己申告をするものとする。
7．実施方法（省略）
8．本指針の改正（省略）

支 部 活 動 案 内

◎最新の支部活動案内は、本学会 Web サイトに掲載いたします！

▼第 108 回東京支部研究会　【計画中】
日本保健医療行動科学会 東京支部事務局（責任者：樋口倫子）
〒279-8550 浦安市明海 1 丁目 明海大学
Email：nhiguchi@meikai.ac.jp　Tel：047-355-5120（教員代表）

▼第 138 回近畿支部研究会　【計画中（再開予定）】
日本保健医療行動科学会　近畿支部事務局（責任者：馬込武志）
Email：jahbs.k@gmail.com（近畿支部専用アドレス）

▼第 63 回北海道支部研究会　【諸般の事情で一時休止中】
日本保健医療行動科学会　北海道支部事務局（責任者：森谷 満）
〒002-8072　札幌市北区あいの里 2 条 5 丁目　北海道医療大学病院内科・心療内科
Email：jahbshokkaido@yahoo.co.jp　Tel：011-778-7575（病院代表）

日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中

学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。雑誌の発行は年 2 回（6 月及び 12 月の予定）です。投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。

投稿論文は「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」にて受け付けとなります。投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト（https://www.jahbs.info/）の「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。

会員の皆さまからの投稿をお待ちしております。

※「利益相反に関する指針」策定に伴い投稿規定が一部改定されました（2022 年 6 月 18 日）。

日本保健医療行動科学会雑誌 査読委員に関する申し合わせ【修正版】（2022 年 5 月 22 日）

1．査読委員選定規準
- A 専任査読委員（役員）
  - 1）本学会の顧問、理事、監事または評議員であること
  - 2）保健医療行動科学に関わる論文の査読が可能である者
- B 専任査読委員（会員）
  - 1）本学会の会員であること
  - 2）以下の条件のすべてに該当する者
    - ①保健医療行動科学に関わる論文の査読が可能である者
    - ②博士の学位を有する者、もしくはそれに準ずる研究上の業績を有する者
- C 臨時査読委員（会員以外）
  - 1）本学会の会員以外で、編集委員会が必要に応じて臨時に認めた者
  - 2）保健医療行動科学に関わる当該論文の査読が可能である者

2．査読委員の役割と責任
- 1）専任査読委員は、任期中に依頼を受けた本学会雑誌の投稿論文を査読する。
- 2）査読の際には、投稿規定を熟知し、査読ガイドラインに従って査読する。
- 3）査読期限（1 ヶ月以内、再査読は 2 週間以内）を厳守、あるいは問題が生じた場合には速やかに編集委員会に連絡する。

3．専任査読委員の任期と公表
- 1）専任査読委員の任期は 3 年とし、再任は妨げない。
- 2）理事会で承認された専任査読委員は公表され、本学会雑誌に掲載される。

※査読委員の具体的な選定方法等については、今後、編集委員会及び理事会で検討される予定です。

●会員勧誘のお願い●

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧め下さいますようお願い申しあげます。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイトからダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申しあげます。

【重要】e メールアドレスの登録のお願い

2021 年 3 月より、会員管理システムの導入に伴い e メールアドレスの登録が必須となっています。e メールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局にお知らせください。すでに e メールアドレスを登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。なお、e メールアドレスを利用されていない会員の方は、ご案内の方法や会費納入等について相談させていただきますので、事務局までご連絡をお願いいたします。

【事務局移転のご案内】

2022 年 10 月 1 日より、本会事務局が次の通り移転することとなりました。これまでの奈良学園大学内の住所及び電話番号は 9 月 30 日までとなりますので、お間違えのないよう、お願い致します。なお事務局担当者も替わり、対応可能な日時も変更予定です。

新住所：〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-1-22-702　日本保健医療行動科学会 事務局
メール：info@jahbs.info（変更なし）
事務局担当者：旭（あさひ）
対応可能日時：基本的に毎土曜日 9:00-17:00（予定）

（第 13 期会長　諏訪茂樹）

事務局便り

○2022 年度会費（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします（行き違いの場合はご容赦ください）。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください。

○会員管理システム導入に伴い、会費の納入は、オンラインでの銀行振込（りそな銀行宛で一請求につき一振込口座が自動発行）またはクレジットカード決済（各種）となります。オンライン決済では複数年の会費を同時に決済することはできません。詳しくは学会 Web サイトをご参照ください。やむを得ずゆうちょ銀行への振込・振替をご希望の場合は本学会事務局にご相談ください。

○2013 年 6 月（第 10 期）以降の理事会議事録及びニュースレター（第 81 号～第 99 号）を学会 Web サイトの会員ページに掲載しています。会員ページを閲覧するためには、ユーザー名とパスワードが必要です。ニュースレター第 100 号以降は学会 Web サイトで公開しています。

○退会をご希望の場合は、学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイル又は画像ファイルを e メールに添付して事務局に送付してください。

☆事務局員として 8 年間大変お世話になりありがとうございました。至らぬ点も多々ございましたが、皆さまのご支援とご厚情に支えられて何とか務めることができ、貴重な経験をさせていただきました。この場をお借りしてこころより感謝とお礼を申しあげます。このご縁を大切にし、機会がありましたら学術大会や支部研究会等にも参加させていただきたいと思っております。その節は何卒よろしくお願い申し上げます。
皆さまの今後の益々のご健勝とご多幸をお祈り申しあげます。本当にありがとうございました。（飯高）

＜＜編集後記＞＞

ニュースレター第 105 号（全 16 頁）をお届けします。理事会体制が本年 6 月から第 13 期となり会長、副会長が替わりました。1 頁には諏訪新会長のご挨拶、7 頁には新たな役員・委員会構成が掲載されています。新たに 5 名の会長任命理事も選出されました。引き続き皆さまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。2～6 頁には恒例の総会報告が掲載されていますのでご確認ください。8～10 頁には今年 6 月に開催された第 36 回学術大会の振り返りと報告（主に参加者の感想）が掲載されています。古くて新しい「対話」がテーマの大会でしたが、問題解決や目的達成を意識した対話ではなく、様々な意見の共存や共感を意識した対話がかえって問題解決や目的達成を促すからくりを垣間見たような気がしました。11～13 頁にかけて挿絵ギャラリー企画（最終回）が掲載されています（本学会の Web サイトに公開されているニュースレターWeb 版ではカラーで掲載されています）。その他、10 頁「第 37 回学術大会のご案内（第 1 報）」、13 頁「本の紹介『医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本』」、14 頁「利益相反に関する指針（検討中）」、15 頁「査読委員に関する申し合わせ（修正版）」が掲載されていますので是非ご一読ご確認ください。最後に、理事会が新体制となり、事務局体制も総務担当も Web 担当もニュースレター担当も一新されます。ノスタルジーはさておき、乞うご期待！！（吉岡）

Akira. Nakagawa